

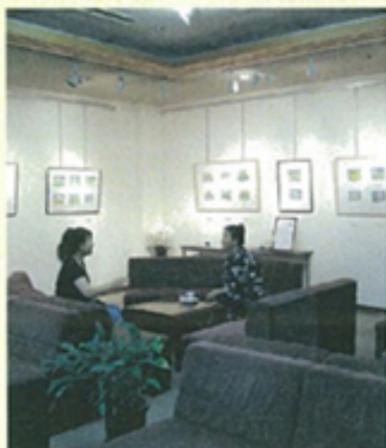
大津けいはん タイムス

「大津けいはんタイムス」を手にとって戴きありがとうございます。本紙は大津市内を走る京阪電車沿線の人々との交流と、まちの活性化を目指し「大津の京阪電車を愛する会」の会員自らが作った情報紙です。タイトルもみなさまからの公募で選ばれて、この「創刊号」が生まれました。市民の「目」と「足」で集めた情報で、「みんなを繋ぐ双方向性の媒体」にしていきたいと考えています。
★「京阪電車を愛する会」は、貴重な公共機関としての京阪大津線(石山坂本線・京津線)の利用促進を図ることなどを目的に、平成17年11月に設立された市民団体です。

～アートに触れる秋～

喫茶コーナー併設のサロンで、 芸術や書籍に親しむ

窓から見える木々に時折目を休ませながら、ソファに身をすくめ、郷土の本や雑誌をゆっくり楽しむ…そんな優雅なときを過ごせる場所は、滋賀会館の2階、県庁側にある「滋賀会館文化サロン」。サロンの壁面はギャラリーとして使用され、2週間ごとに作品が入れ替わります。展示は無料。滋賀県にゆかりのある人なら誰でも利用できます。同施設は、県立図書館が滋賀会館内より、瀬田の文化ゾーンに移動した後、昭和59年3月にオープン。県民に、気軽に文化に親しんでもらう目的で開設されました。



顔馴染みの来館者と話す
店長の古田さん(左)

約10年前から、サロンの一角にある喫茶コーナーを任されている店長の古田さんは、「展示をする人、見に来る人、おしゃべりに来てくれる人など毎日の出会いが楽しい」とサロンの魅力を語ってくれました。また「顔見知りのお客さんなどが載っている新聞は、切り抜いておいて、次に出会った時に渡すんですよ」と、きめの細かい心配りも。カウンターの上には、画家からプレゼントされた絵もあります。子連れでの利用も歓迎とか。本を読んだり、絵を見たり、コーヒーを飲みながらおしゃべりしたり…それぞれの時間を気ままにすごせそうです。

島ノ関駅下車徒歩3分、
滋賀県庁手前
077-522-6191
※喫茶コーナーは日曜休み

大津はお茶の発祥地

みなさんは、ここ大津が「お茶の発祥地」だということをご存じですか？
天台宗の開祖、伝教大師最澄が唐より帰国の時に茶の種子を持ち帰り、日吉大社が鎮座する坂本に植えられました。



坂本駅前の「日吉茶園」

その場所が日本最古の茶園と言われる「日吉茶園」にあたり、4月の日吉大社「山王祭」の折には、ここで採れたお茶が供えられます(献茶式)。

また、「日本後記」には、「西暦815年(弘仁6年)、唐崎行幸の途中、嵯峨天皇が梵釈寺を過ぎたところ(滋賀里)で、大僧都永忠から茶のもてなしを受けた」と記述されています。この記述が、わが国の正史に登場する最初の喫茶の行為として知られ、大津は文献に残る喫茶発祥の地と言えるのです。

日吉大社では前述の献茶式のほか、お茶にまつわる行事として、同大社の西本宮神前において、5月に裏千家が、11月には表千家が「献茶祭」を執り行います。見学もできるそうですよ。

「京阪電車を愛する会」でも、毎年5月に「古都大津 喫茶の日」を設け、さまざまなイベントを実施しています。来春もお楽しみに!

大津線に乗って見つけてみませんか?

お茶を飲みながら文化に触れる秋

～音楽を楽しむ秋～

心地よいジャズで、くつろぎのひととき

昭和55年の開店以来、一日中ジャズが流れるお店として親しまれている「マイルストーン」。店名は、ご主人の大好きなトランペット奏者の「マイルス・デイヴィス」に由来、また英語で「一里塚」の意味を持つことから「ちょっと一服してもらう場所」として命名されました。



5年前には、琵琶湖観光船「ミシガン」で演奏していたオーストラリア人で、雑誌SWINGに載るようなジャズピアニストから、「お店をテーマにした曲を作りたい」と言われたり、全国的な喫茶店専門誌から取材を受けたりするなど、マスターご夫妻の思い出は数々…。

開店当初は、「びわ湖バレイジャズフェスティバル」が開催されていた影響もあり、たくさんの若い方が来られたそうですが、最近はどちらかという年齢の方がゆっくりとくつろぎ、静かなひとときを過ごしておられるようです。

ご両親の仕事ぶりを見て育った2人の息子さんはそろって料理の世界へ。将来はお店を継いで、ヨーロッパにあるような人と人の繋がりを大切に作るカフェにすることが目標だそうです。

これまでジャズと共に歩んだ30年間、今もBGMには心地よい音色が流れていますが、この店の本当の魅力は、マスターご夫妻のあたたかい人柄にあるのだと感じました。



新徳修久さん 笑子さん ご夫妻

島ノ関駅下車徒歩1分、
びわこ側へ信号渡ってすぐ
077-526-3932
※日曜休み(祝日は営業)

※マイルストーンは10月31日、11月1日に開催される「第1回大津ジャズフェスティバル」の会場となります。この機会にぜひジャズバンドの演奏をお楽しみください。

～趣味に出会う秋～

レトロな喫茶店で楽しむ、それぞれの時間



店内の壁や照明などのデザインにも懐かしさを感じる…。35年前にオープンした喫茶「20の7番地」は、その落ち着いた雰囲気から人気で、今も昔なじみのお客さんが新聞を読みながらのんびり過ごす光景が見られます。お店の奥にある大きなテーブルは、オーナーの前川則子さんが、15年前にお義母さんからこの店を継いだ後、しつらえたもの。「女性が気軽に集えるような店」にしたいという思いをもって、ここで得意のフラワーアレンジメントを教えています。

また、昨年からブログで知り合った編み物講師のmichi先生を迎えて、ニットカフェ(編み物教室)を開催。編み物をしながらお茶とおしゃべりが存分に楽しめるかと好評です。

そのmichi先生も、前川さんの人柄に惹かれた一人。「このお店に来ると、オーナーさんにとっても癒されるんですよ」と話します。また「わいわい、作品を見せ合ったり、次に何をしようかと相談したり、おしゃべりに花が咲きます」と、ニットカフェの楽しさを語ってくれました。

お店には、前川さんがとても丁寧に作る「家庭の味」や、ブログにもたくさん写真を掲載しているバラなど、「庭の花々」を目当てに訪れる人も多しとか。時折、ライブ演奏会の会場にも変身する同店。いろいろな趣味、年代の人が、それぞれの目的をもって利用する喫茶店って、おもしろいですね。

一歩足を踏み入れれば、いつもと違った世界を楽しめるかも…。



中央が、オーナーの前川さん。
「一生懸命、楽しく」という
前向きな姿勢に、ファンも多い。

唐橋前駅下車徒歩5分、
山手に向かって晴嵐小学校手前
077-533-6930
※月曜・祝日休み

途中下車の小さな旅

浜大津駅から京津線に乗ること約6分、緑豊かな比叡山系と音羽山系の山に囲まれ、静かな隠れ里のような小さな駅が「大谷駅」。大津の中心地からたった2駅であるのに、約10mの高低差のトンネルを抜けると、その周りの景色はがらりと変わること驚く。駅を一步出ると目の前には見事な大銀杏の木、そこが関蟬丸神社から分社した「蟬丸神社」だ。ちなみに蟬丸神社は市内に3社あり、大谷駅前の蟬丸神社の他、国道1号線沿いに関蟬丸神社の上社（かみしゃ）、国道161号線沿いに下社（しもしゃ）がある。関蟬丸神社は逢坂山の関の神として古代から厚い信仰を受け、その後平安時代の琵琶の名手、蟬丸の霊が合祀され、今の関蟬丸神社となったという。ここから東に上がる道はかつて都への入口で、多くの人々の往来があったという「逢坂の峠」。蟬丸が詠んだ和歌「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関」はあまりにも有名だ。蟬丸ゆかりの3社を巡ると、当時の風情を感じることができそう。大津市では、国道1号線沿いにある逢坂山関址の碑の周りを整備。2009年4月に「逢坂の関記念公園」が完成した。大津の歴史散策の憩いの拠点になることが期待されている。



～大谷駅ミニ情報～
大谷駅は1912年8月15日の開業以来、約99年間は東海道本線（現在のJR琵琶湖線）との乗換駅でした。これまで2度の移転が行われており現在に至っています。標高は大津線の中では一番高く、勾配も日本の大手私鉄では最急といわれるほど。ホーム全体が傾斜しており、ベンチの脚の長さも左右で異なるほか、また乗降客数は大津線では一番少ない駅でもあります。

駅から北へ歩き大谷園地を抜けたところに大津市営の「琵琶湖乗馬倶楽部」がある。「緑に囲まれ大きな馬にまたがると、気持ちよくリラックスできる」と話してくれたのは、インストラクターの高田修さん。会員歴約7年の浪花若雄さんは「この乗馬倶楽部はマンツーマンで指導してもらえるのが特徴で、とても馬を大事にしているのがいい」とその良さを語ってくれた。

大津の歴史に触れる… 峠の大谷駅周辺を散策

馬の背から見降ろす風景はどんなものだろうか興味をわく。この馬場は戦後、進駐軍が日琵琶湖ホテルを接收し、将校用の厚生施設として湖岸の柳が崎に乗馬場を準備したのが始まりで、その後市民の乗馬場となったという。一方で、現在の大谷乗馬場の地は、戦前は陸軍、戦後は米軍の射撃場で、その後大津市に払い下げられ、今の乗馬場が移転してきたそう。話を聞いたのは、明治時代から大谷駅近くで代々うなぎの「かねよ」を営む5代目の吉田恵一さん。吉田さんに大谷のお気に入りの場所を尋ねると、乗馬場脇の東海自然歩道を歩き、大津市内を見下ろせる見晴らし台に出たところだと教えてくれた。

国道1号線を下った水車谷不動尊道沿いにある、「藤三郎(とうざぶろう)草木染組研究所」は、江戸末期に米屋の副業として、印籠の組紐などを作り販売したのが始まりで、初代から変わらずこの地で手組みの組紐を作り続けている。逢坂の関を行きかう人々に、その昔、大谷には大津鯉、算盤(そろばん)、針などの土産屋が軒を並べ、組紐同業者も以前は34軒あったが、今は「藤三郎草木染組研究所」ただ1軒のみ。4代目の太田耕吉さんは「この道は関所の抜け道だったと思う。冬は寒いが夏は涼しく大津の北海道と呼ばれている。音羽山に登ると、琵琶湖が一望できるよ」と地元ならではの情報も教えてくれた。今まで何気なく通過していた大谷駅だが、今回の途中下車で、歴史の深さや自然の豊かさにすっかり魅せられてしまった。

京阪沿線でがんばる人たち♪ まちにあかりを「ナす美の会」(ナカマチ商店街)

「なすび」というちょっとおもしろい名前を持つのは、大津市の中心市街地に位置する「ナカマチ商店街」を大切に思うメンバーの会。「ナカマチが好きな美人の会」で「ナす美の会」と名付けられました(ちなみに美人とは男女問いません！)。「ナす美の会」が発足したのは2005年の春。商店街のおかみさんたちが「後継者ねえ、うちの息子もお嫁さんを…」「子どもも手が離れたし、みんなで何か楽しいことでも」などと話しているうちに、

「じゃあ、まずはみんなで食事会でも」と気軽な気持ちから始まりました。その後、近隣で新しいお店ができるとそこで「食事会」を開いたり、メンバーの提案から懐かしいフォークソングなどの「ハウスコンサート」を開催したりして、次々に活動を広げていきました。

2006年には、大津市に商店街のための音頭があったことを知り、そのレコードを探したり、曲を覚えていく人を訪ねたりして、CDを作成。当時を知る方から踊りの指導も受け、見事50年ぶりに「大津商店街音頭」を復活させました。2007年からは、この音頭を中心に毎年10月に開催されている「食灯祭」にも参加。みんなアーティスト気分です各自の店の看板を、手作りした灯りで飾っています。この会のモットーは、「楽しいこと、町が元気になることなら何でもやってみよう!」「町の人が楽しんでやっていたら、きっと来る人も楽しくなる!」「誰でも参加OK!」だとか。とにかく、楽しいイベントが大好きなメンバーの集まりで、現在は歌声喫茶と銘打った「やすらぎコンサート」を、2008年5月



から開催。毎月第2火曜日の1時半～3時に菱屋町にある「まちなか交流館ゆうゆうかん」で、多くの方が元気に歌声を響かせてくださっています。その他のイベント予定は、菱屋町商店街の「八百与」前に掲示やチラシを置いてありますので、ぜひ一度のぞいてみてください。

「茄子にあだ花なし」といわれるように、花が咲けば必ず実がなる茄子。「なす美」の会も、みんなで町にたくさんの「実」をならせ、地域の人たちの暮らしに欠かせない「商店街の大切さ」も感じてもらえればと願っています。【連絡先：八百与 小倉 (077-522-4021)】



ナす美の会 手作りあかり

ボランティアスタッフが総力取材! つながる27駅

- ◆マークのご説明
- ♿ …スロープ有
- ♿ …エレベーター有
- ♿ …エスカレーター有
- ♿ …JR線乗換駅
- ♿ …トイレ有
- ♿ …車椅子対応トイレ有
- ♿ …大津市管理の公衆トイレ
- ♿2 …京都市方面ホームにはスロープなし



街あるき情報

「おもてなし」から大津の魅力を伝える 大津まちなか食と灯りの祭2009開催

この秋、商店街や琵琶湖岸などの中心市街地全体を会場とし、まちなかに息づく食の文化や灯りをテーマにした市民参加型イベント「大津まちなか食と灯りの祭2009」が開催されます。このイベントは、「大津まちなかを訪れる人々を温かいおもてなしで迎えよう」という試みで平成19年から開始され、以来多くの人から好評を得ています。今年は「灯り」「食」に加えて「音楽」のイベントも実施します!

大津まちなか食と灯りの祭2009

開催日: 10/3(土)～12/31(木)
開催会場: 大津市中心市街地
主催: 大津まちなか食と灯りの祭実行委員会
問い合わせ: 大津市都市再生課 (TEL077-528-2501)
※その他、多数のイベントが実施されます。詳細は上記までお問い合わせください。

- < 関連イベント >
- 「よみがえれ琵琶湖文化館」 10/3(土)～12/31(木)
 - 「びわ湖大津秋の音楽祭」 9/19(土)～11/1(日)
 - 「第1回大津ジャズフェスティバル」 10/31(土)・11/1(日)12時～17時(一部除く)

「灯り」イベントは期間中、JR大津駅前中央大通りの街路樹や琵琶湖岸沿いのなぎさ公園の約1.8kmがイルミネーションで美しく輝きます。なかでも琵琶湖に浮かぶ雄大な湖上イルミネーションは一見の価値あり!さらに、今年は「よみがえれ琵琶湖文化館」も同時開催。7年ぶりに市民の手によってライトアップされた琵琶湖文化館が優雅に浮かび上がります。「食」イベントでは、お箸とお皿を手にまちなかの名店を500円で7店舗食べ歩きができる「大津まちなか食ウォーク」や、県下有名ホテルのシェフたちが腕を振るう一日限りの夢の舞台「楽食長卓宴」を実施。大津のおすすめの味が堪能できます。さらに「音楽」イベントでは、びわ湖ホールをはじめとするまちなかの文化・交流施設が一体となって「びわ湖大津秋の音楽祭」を実施。また大津では初めて開催される「大津ジャズフェスティバル」に合わせたイベント「なぎさのジャズコンサート」も、琵琶湖岸の会場で実施されます。なお、すべてのイベントは入場無料。ぜひ、お気軽に大津の「おもてなしの心」を感じにお出かけください。

「楽食長卓宴」

日時: 10/31(土)11時～15時
会場: なぎさ公園おまつり広場

「なぎさのジャズコンサート」

日時: 10/31(土)・11/1(日) 12時～20時(一部除く)
会場: なぎさ公園おまつり広場、打出の森

「湖上イルミネーション」

日時: 10/3(土)～12/31(木)日没～22時
会場: 市民会館からなぎさ公園打出の森、JR大津駅前からびわ湖岸までの中央大通り

「大津まちなか食ウォーク」

日時: 11/21(土)11時～15時
会場: 寺町商店街、ナカマチ商店街、浜大津商店街など
受付場所: 天孫神社

～活気あふれる皇子山中学校～
今回ご紹介する学校は、皇子山駅の掲示板に生徒会新聞「皇中きっぷ」を掲示している、大津市立皇子山中学校。皇子山駅からびわ湖の方へ歩いて5分ほどで皇子山球場の向かい側に位置し、広いグラウンドと体育館が特徴の中学校です。ここには長等・滋賀・藤尾・比叡平の4学区の生徒が多く通い、現在は3年生6クラス、2年生7クラス、1年生8クラス。最近生徒数が増えきて、活気いっぱいの中学校です。

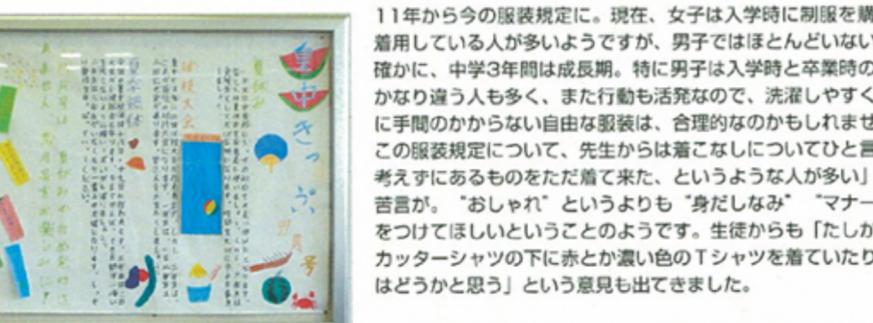


～生徒会新聞「皇中きっぷ」～
皇中きっぷの特徴は、折り紙やペンを使い、季節にあった飾り付けをして、華やか&シンプルに作っていること、また読みやすいようにすべての漢字にふりがなを打っていることだとか。実際7月の新聞を見せてもらうと(写真参照)、夏らしい図柄で目にも涼しく折り紙で彩られた中に、すっきりと学校生活についてのお知らせが書かれています。七夕の短冊の中にはひととき目立つ太い字で「受験合格」の文字も。皇中きっぷを作るのも残りわずかとなった3年生のみなさんの、正直な気持ちが表れているのを感じました。この皇中きっぷは新聞やテレビで紹介されることも多いそう。また読者からの反響もあり、新聞制作者としてとても動みになっているそうです。

沿線の学校へ行こう

生徒の自主性あふれる「大津市立皇子山中学校」

～「皇中」のスローガン～
取材にお邪魔したのは7月上旬、次の皇中きっぷ制作に向けて活動中の生徒会室へ案内していただきました。お話を伺ったのは、生徒会で広報を担当する3年生の4名。皇子山中学(皇中)のスローガンには「やっぱり皇中が好き」が掲げられていますが、皇中の好きなところを聞いてみると、「先生がやさしいところ。よく話をきいてくれるところ」と答えてくれました。(もしかすると、そばにいた生徒会担当の先生に気を遣ったのかも?)ほかに「体育館が広いところ」という声もありました。



皇子山駅に掲示している「皇中きっぷ」

～自由な服装規定～
皇中は滋賀県下で唯一、標準学生服、または中学校生活に適した服装を生徒が自主的に判断して着用できる中学校です。先輩たちの熱心な取り組みで、何年もかけて少しずつ校則を改定して、平成11年から今の服装規定に。現在、女子は入学時に制服を購入して、着用している人が多いようですが、男子ではほとんどいないとか。確かに、中学3年間は成長期。特に男子は入学時と卒業時の体格がかなり違う人も多く、また行動も活発なので、洗濯しやすく手入れに手間のかからない自由な服装は、合理的なのかもしれませんね。この服装規定について、先生からは着こなしについて一言「何も考えずにあるものをただ着て来た、というような人が多い」という苦言が。「おしゃべり」というよりも「身だしなみ」「マナー」に気を付けてほしいということのようです。生徒からも「たしかに白いカッターシャツの下に赤とか濃い色のTシャツを着ていたりするのはどうかと思う」という意見も出てきました。

服装規定改定から10年、先輩たちが獲得し創ってきた自由な校風を、今の皇中生、そしてこれからの皇中生は、どう守り、進歩させていくのでしょうか。皇中きっぷのこれからとともに、期待を込めて見守りたいと思います。

三条京阪 大谷方面



見ればあなたも大津線マニアに! ? 京阪電車知って得する! まめ知識



石坂線を走る 電車の蛍光灯は…



石坂線を走る電車(600形、700形)の車内を明るく照らす蛍光灯。一見普通のものとなんら変わらないように見えますが、実際には特殊な工夫が…。実は車内で使用される蛍光灯はすべて、管全体が薄いフィルムで覆われているのです!

もし何らかの衝撃を受けて落ちて蛍光灯が割れてしまった場合、破片が飛び散り乗客に危害が及びます。でもこの特殊な蛍光灯なら、破片がフィルムによってガードされているので大丈夫。万が一割れても飛び散らないようになっているという訳です。ただし、特殊であるために一般品と比べると値段もなんと約3倍! 蛍光灯一つにも安全にこだわっている、という証拠ですね。

残念ながら、フィルムが貼られていることを目で確認することは出来ませんが、片隅には「防飛形」という表示がしっかり明記。乗客の見えるところで、見えない安全をしっかり守って、今日も車内を照らしています。

京阪電車の皇子山駅、浜大津駅、京阪石山駅を利用した際、足もとがなんだかやわらかく包まれたように感じませんか?

それもそのはず。この3駅の床タイルには、古タイヤなどを細かく裁断してできたゴムチップを利用した「エコタイル」という舗装材が使われているのです。ゴムを原料としているだけあって、弾力性は抜群! 歩きやすく、また滑りにくいといった特徴が生かされています。このエコタイルを駅の舗装材として採用したのは京阪電車が初めて。ぜひこの3駅へ訪れた際には、エコタイルの優しさを目と足で感じてみてはいかがでしょうか。



歩くとわかる 舗装材



[PR] 大津の京阪電車を愛する会 会員募集中!

「大津の京阪電車を愛する会」は貴重な公共交通機関である京阪大津線の利用促進を図ることを目的として、平成17年11月に設立された市民団体です。電車内や京阪沿線で行う各種イベントを通して京阪電車にふれあう機会をつくる活動を行っています。皆さんも本会と一緒に京阪大津線を支えていきませんか?



入会方法

- 入会一口(2000円)からです。
- ご住所、ご連絡先を電話、FAXにて下記までお伝え
いただければ、申込用紙兼振込用紙を送付させていただきます。
- 申込用紙兼振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの郵便局で
会費をお振込ください。後日会員証、乗車券等をお送りいたします。
- 申込用紙兼振込用紙は京阪大津線の各駅に設置しております。



大津の京阪電車を愛する会

<http://www10.ocn.ne.jp/~ok-love>

〒520-0047 滋賀県大津市浜大津四丁目1-1 「明日都浜大津」1階 市民活動センター内
TEL/FAX:077-523-6238(事務局は、土曜日の午後1時~4時に開いています)

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3-1 大津市建設部交通・建設監理課
TEL:077-528-2736 FAX:077-521-0427

大津の京阪電車を愛する会

検索



本会主催「日本で一番細長い美術館 石坂線みんなで文化祭」11月7日(土)~23日(月)開催



編集後記 ~記者たちのホットスペース~

取材の度に新しい出会いや発見があります。そのうえ、新聞を読んでもくださる方々が、おもしろい記事に出会ったと感じて下さればうれしいですね。(秋)

多くの人に読んでいただける紙面作りにかかわれたのは夢のよう。信頼して気さくに取材に応じてくれた方々、支えてくれたメンバーに感謝です。(梅)

取材で経験する新しい出会いは、日常に小さな灯りをともしてくれます。胸のドキドキのあとに暖かく広がるものがある。それをみんなに伝えたい。今回もそんな経験、ありがとうございます。(谷)

「自分たちが発見した大津の魅力を一人数でも多くの人に伝えたい」との思いで、19歳の編集長の下、愛する会ボランティアスタッフで取り組みました。読まれたみなさまからの反応を待っています。(福)

人のやさしさにふれた取材ができ、楽しかったです。(藤)

編集を担当しながら、まだまだ知らない大津の魅力がたくさんあることを実感。この新聞を通して少しずつ皆さんにもお伝えできればと思います。(岸)

取材に応じてくれた4名の生徒さんはいずれも3年生でした。名前をきいてびっくり、うち3人は娘の小学校の同級生でした。まったく気づかなかった私。一瞬にして「市民記者」から「おばちゃん」の顔になっていたかもしれません。(平)

大津のまちなかを背骨の様に走る京阪電車。まさしくまちの骨格となり人々の生活の支えとなってきました。しかし、これからはこの貴重な財産を私達市民がどのように活かしていくのか、皆が住みよいため他所に自慢できるまちとする為、我々からどう関わっていくかが大切だと感じました。「無意識の存在から意識するパートナーに」こんな思いで沿線を歩きました。(木)

~会長からのごあいさつ~

平成17年11月に設立した大津の京阪電車を愛する会は、おかげさまで会員が1000名を超えました。この度、度、会員の皆様からのご支持と、ボランティアスタッフの努力により沿線情報紙が創刊されることになりました。今後も沿線と地域的话题を大事にしたいと思っておりますので、皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

大津の京阪電車を愛する会 会長 林 賢治

新聞編集は19歳、発行日からは20歳になります。人生の節目と新聞発行日が重なったのは、一個人として、そして編集長として大変貴重な経験をさせていただいたと思っております。

今お読みいただいているこの紙面は紙の重さとしては軽いものですが、その軽さに隠れている「人の想い」が詰まっております。長い日数を掛けて記者たちが築き上げたこの新聞の重さを、皆様にも感じていただけることを願っております。

(編集長 本田 祐基)